

三宿病院病理検査室における臨床研究と学会または学会誌への報告のご案内

三宿病院病理検査室では三宿病院倫理委員会の承認を得て、『上部尿路上皮癌（腎盂癌、尿管癌）における尿細胞診新報告様式 The Paris System（TPS）の有用性に関する研究』を行うことになりました。

膀胱がん・腎盂がん・尿管がんには尿路上皮がんというがんが多く発生し、それを発見するための検査のひとつとして、尿の中に浮いているがん細胞を見つける「尿細胞診」が行われています。その判定は細胞検査士や病理診断医が行いますが、基本的に個人的な経験に基づいてなされ、客観的な基準がないのが問題となっていました。そこで2016年に明確な判定指針を示した尿細胞診の新しい診断システムとしてThe Paris System（TPS）が発表され、膀胱の尿路上皮がんの診断能力向上に役立つことが示されました。いっぽう腎盂がん・尿管がんに関しては、膀胱がんと区別するために膀胱の先の尿管の尿を採取して細胞診を行う「分腎尿細胞診」が行われていますが、これへのTPSの適用が2022年からと比較的最近であり、膀胱がんのように有用なのかどうかは今のところあまり検討がなされていません。

このため、2021年4月から2025年6月の間、当院で手術を受け腎盂または尿管の尿路上皮がんと病理組織診断され、手術前に分腎尿細胞診を行われた方を対象に、その判定をTPSに基づいて再評価し、TPSのがん診断に対する有効性を調べます。

研究に用いられる情報は細胞診・病理組織診の診断報告書から抽出した年齢、性別、細胞診・病理組織所見および診断であり、お名前、住所など個人を特定できる個人情報はずべて削除して管理いたします。また今回の研究で得られた成果を学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。しかしながらご自身の臨床情報を研究に使用しないでほしいというご希望や他のお問い合わせ等がございましたら、三宿病院庶務課までご連絡ください。